

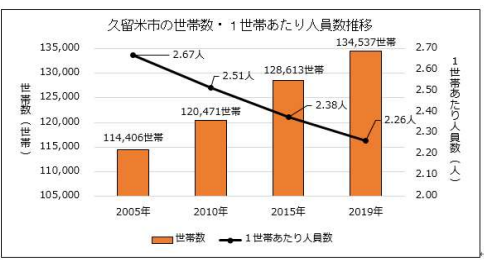
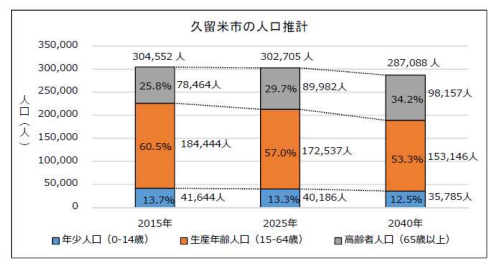
「地域共生社会」の実現に向けた久留米市の動き

～くるめ支え合うプランの推進～

市の状況

【支え合うプランP1、P8～P10】

- ◆高齢者のみの世帯や単身世帯が増加し、家庭内での支え合い機能が低下
- ◆少子高齢化や人口減少の進行、世代間の価値観の差の拡大、人々の移動性の高まりなどを背景に、地縁を基盤としたつながりが希薄化
- ◆個人や世帯単位で複数分野の課題を抱え、分野を超えた支援を必要とする「複合的な課題」やこれまでの支援制度では対応が難しい「制度の狭間の課題」の顕在化



課題

【支え合うプランP20】

- ① 支え合う意識やつながりの希薄化への対応が必要
- ② 誰もが気軽に集える場の不足への対応が必要
- ③ 相談しづらいことへの対応が必要
- ④ 複合的な課題や制度の狭間の課題等への対応が必要
- ⑤ 地域防災力の強化が必要
- ⑥ 地域活動等の担い手不足への対応が必要
- ⑦ 地域住民等への支援の強化が必要
- ⑧ 情報が適切に入手できていないことへの対応が必要

<各分野に共通する取組み推進の手法>

～個別支援の成果や課題を活かした地域づくり
地域力強化による個別課題の早期発見・早期解決～
【支え合うプランP24～P27】

これまでの地域福祉施策の主な課題

【支え合うプランP12～P18】

- ・個別課題への対応や高齢者以外の分野への対応の充実が必要
- ・校区コミュニティ組織の区域を超えた多様な活動との連携の充実が必要
- ・災害時の避難に支援を必要とする人の個別の避難支援計画の充実が必要
- ・複雑化、多様化する相談に対応するため、支援関係機関の連携強化が必要
- ・自ら支援を求めることができない人や相談窓口が分からない人への支援、相談窓口がないことへの対応が必要

地域住民等の意見

【支え合うプランP19、P70～P76】

- ◆ヒアリング (H30.6～R1.7)
 - ・困りごとや悩みごとを自ら発信できるような環境が必要
 - ・同じ経験・境遇の人でなければ、悩みは吐き出せない
 - ・当事者の意思を尊重した支援が必要
 - ・地域活動等の担い手や後継者が不足している
 - ・必要な情報を適切に入手できない人がいる
- ◆ワークショップ (H30.12～R1.6)
 - ・福祉教育の機会が必要
 - ・誰もが気軽に集う、交流・意見交換の場が必要
 - ・避難訓練を定期的に行い、災害に強いまちづくりが必要
 - ・地域住民と専門職の連携が必要

具体的な取組み

【支え合うプランP21、P29～P65】

